

大阪大学大学院歯学研究科は専門性をきわめるとともに、教養（確かな社会的判断力）、デザイン力（イメージーションとネットワーク）、国際性（異文化理解）を身につけようとする、主体的で積極的な学生を求めます。

大阪大学大学院歯学研究科アドミッション・ポリシー

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、学士課程又は修士課程・専門職課程における学修を通して、確かな基礎学力、専門分野における十分な知識及び主体的に学ぶ態度を有し、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を広く受け入れます。このような学生を適正に選抜するために、研究科・専攻等の募集単位ごとに、多様な観点からの評価を行います。

【求める人材像】

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、歯学研究科では、生命科学基礎研究から先端的な診断・治療技術の開発に至る、口・顎・顔面領域に基盤をおいた高度な科学への探究心と、歯学研究・歯科医療分野における次世代のリーダーを目指す意欲に満ちた、以下のような資質をもつ人を受け入れます。

- （１）歯科医学、生命科学を愛し、歯科医療に対する真摯な姿勢と使命感をもつ人
- （２）最先端の知識と技術の修得に必要な洞察力と精神力をもつ人
- （３）意欲と好奇心に満ち、自由なイメージーションに富む人
- （４）目的意識と向上心に溢れた自立心の強い人
- （５）積極的に世界レベルでのコミュニケーションを望む人
- （６）自らのキャリアパスを模索し、未来の自分を「創造」する人

【入学者選抜の基本方針】

上記のような人材を受け入れ、また多様な学生を確保するため、国内の学生においては一般選抜と社会人特別選抜による入試を行います。また、学生の学習環境としてグローバルな多様性を確保するため、外国人留学生特別選抜を行います。

【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】

- １．一般選抜では、特に（１）及び（６）を重視した評価を行います。筆記試験（外国語）により（５）に関する能力を評価し、筆記試験（専門科目）により（１）及び（２）に関する能力を評価し、面接試験により（１）、（２）、（３）、（４）、（６）に関する能力を評価します。
- ２．社会人特別選抜では、特に（１）及び（３）を重視した評価を行います。筆記試験（外国語）により（５）に関する能力を評価し、面接試験により（１）、（２）、（３）、（４）、（６）に関する能力を評価します。
- ３．外国人留学生特別選抜では、特に（１）及び（２）を重視した評価を行います。筆記試験（外国語）により（５）に関する能力を評価し、志望理由書と面接試験により（１）、（２）、（３）、（４）、（６）に関する能力を評価します。

大阪大学大学院歯学研究科カリキュラム・ポリシー

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもと、歯学研究科では、専門力、俯瞰力、複眼的思考能力、並びに国際性を涵養し、将来の多様なキャリアパスを支援する教育プログラムに基づいて研究指導を実践します。

＜教育課程編成の考え方＞

高度で幅広い知識を身につけるために、大学院基本講義及び大学院特別講義を開講しています。また、高度なデザイン力と問題解決力を養成するために疾患別 PBL 歯学教育プログラムを開講するとともに、深い学識を身につけるために基幹研究分野専門教育科目を開講しています。さらに、高度な教養及び国際性を身につけるために、特別科目を開講しています。コミュニケーション能力と

国際的センスを身につけるため、大学院基本講義と特別科目及び一部の大学院特別講義は英語による講義を行っています。高度教養教育及び国際性涵養教育のために、他部局で開講されている大学院横断教育科目、大学院副専攻プログラム・大学院等高度副プログラム等の受講を、また、国際学会への参加・発表を通じて、世界レベルでの研究に触れ、海外の研究者との交流を行うことにより国際性を高めるため国際交流科目の受講を強く推奨しています。

<学修内容及び学修方法>

- ・口腔科学を専攻して学んでいく上での基本的知識に関する大学院基本講義を学修します。この授業は、英語で行われるため、国際性涵養教育も兼ねています。
- ・国内外の著名な研究者による種々の研究テーマを対象とした大学院特別講義を学修します。
- ・口腔科学に関するテーマに対する問題解決型で分野横断型の疾患別 PBL 歯学教育プログラムを学修します。
- ・各基幹研究分野における基幹研究分野専門教育科目を講義と演習、実習、実験により学修します。
- ・生命科学に関するテーマについての英語によるプレゼンテーション能力向上を目指した特別科目を演習により学修します。

<学修成果の評価方法>

- ・講義系科目は、シラバスに記載された学修目標を、レポートまたは筆記試験により、その達成度を評価します。
- ・疾患別 PBL 歯学教育プログラム科目は、シラバスに記載された学修目標を、レポート、筆記試験または成果報告（プレゼンテーション）により、その達成度を評価します。
- ・演習、実習、実験系科目は、シラバスに記載された学修目標を、レポートまたは成果報告（プレゼンテーション）により、その達成度を評価します。
- ・研究指導を受けた上で学位博士論文を作成し、十分な学術的価値を有するかどうかを評価します。

従来の生命科学では解決できていない様々な課題に口腔科学の視点から挑むことができる人材育成を目指し、先端的な専門性、高度な教養、国際性に裏打ちされたデザイン力の修得ができるように、基幹研究分野をベースに広範囲な内容が学習できるようにしています。

大阪大学大学院歯学研究科ディプロマ・ポリシー

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、歯学研究科では、口腔科学をベースにした生命科学分野を対象として、以下の資質を身につけた学生に対して博士（歯学）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・歯科医学、歯科医療分野における最先端かつ高度な知識、技能を有し、課題解決のために活用できる能力を身につけている。
- ・口腔科学をベースにより広い領域で独創的な研究を展開し深化させる実行力を身につけている。

○高度な教養

- ・高度で幅広い知識を有し、俯瞰的に思考し多角的に評価できる能力を身につけている。

○高度な国際性

- ・歯科医学、歯科医療における世界的な課題の問題提起とその解決を推進する能力を身につけている。
- ・世界レベルでの活動を推進できるコミュニケーション能力と国際的センスを身につけている。

○高度なデザイン力

- ・先端的な専門性及び高度な教養と国際性をベースに様々な領域の学問を融合し、課題解決の道筋を構想できる能力を身につけている。

○独自の学習目標

・口腔科学の独自性をベースに生命科学における諸問題を提起するとともに、課題解決のために様々な分野の人と協働できる能力を身につけている。

先端的な専門性、高度な教養、国際性に裏打ちされたデザイン力を修得し、従来の生命科学では解決できていない様々な課題に口腔科学の視点から挑むことができる人材に対して博士（歯学）の学位を授与します。

